

平成21年度地区別市政懇談会意見・要望 大根地区

平成21年11月17日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
1	地域まちづくり計画は、市の計画と同じように何年間という期間があるのか。	この計画の提案を受けて、地域の課題や目標を共有した中で、新しい総合計画の基本計画に取り込んでいきたい。	地域まちづくり計画は、基本計画の中に位置づけることになるので、基本計画の期間と同じ5年となります。	企画課
2	地域まちづくり計画の中の防災、防犯及びごみの関係については、東海大学の学生と共同で行なう必要があるが、大学に協力を仰ぐ予定はあるのか。	市長と学長との協議会の場合がある。ごみの問題については、協議会を通じて既に要請しているが、他のことについては、今後話題にしていきたい。	防犯、防災などについて、大学側に協力を要請しました。 ごみの問題を含め、今後も提携事業等により協力をお願いしていきます。	企画課 くらし安全課 防災課
3	下校時の子どもを守るパトロールをしているが、事故に遭ったときの補償はどうなるのか。	ボランティア活動中に不注意あるいは不慮の事故で加害者がなく事故を起こしたときは、ボランティア保険で補償となる。しかし、相手がある加害事故になると人身事故扱いとなり、加害者側との交渉になる。	懇談会における回答と同じ	くらし安全課
4	道路が狭いので、大根川沿いをふさいで学生の通学専用道路に改良してほしい。	河川は貴重なオープンスペースであり、蓋を架けるのは非常に難しい。 現在、下水道部で河川の管理用の通路を整備しているが、歩道については整備後に検討していきたい。	河川管理用道路の実現化に目途が立った後、歩道化についての検討、地元調整を図ります。	道路公園整備課
5	計画の推進に際しては、各自治会が同じ歩調をとらなければ浸透しない。例えば、次年度の自治会の事業計画に取り入れるなどすべきと思うが、今後の進め方をどのように考えているのか。	どのように実施するかは、役員会に図った上で行っていきたい。	事務局の立場で、事業計画等について各地区連合会と調整して、サポートしていきたい。	市民自治振興課
6	市や各地区が実施していることを、いろいろなツールを使用して情報の交流をしてほしい。	市のパソコンを使用して、各自治会が情報の書き込みをできる場所を貸し出すことを検討している。その他にも、様々な媒体を利用して情報の交流ができる方法を考えていきたい。	現在、各地区が実施している事業等については、「自治連だより」を発行し情報提供に努めています。今後、ホームページの活用等による情報の交流を図っていきたい。	市民自治振興課

平成21年度地区別市政懇談会意見・要望 大根地区

平成21年11月17日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
7	マンションで生活しているが、生活音に歯止めがない。このため、生活音に対する基準の策定を検討してほしい。	マンションの騒音については、様々な要因が考えられることから国家資格を有するマンション管理士会に相談していただきたい。 また、マンションの生活音のルール化などについては、研究する必要があると考えている。	毎月第4月曜日に東海大学前駅連絡所内で「マンション管理相談」を開催しています。 引き続き、相談日の周知を図っていきます。  マンショントラブルで最も多いのが、隣人からの生活騒音の問題です。日常生活から発生する生活騒音については、これを直接規制する法律はありませんが、地方自治体によっては条例で規制しているところがあります。 本市では現在このような苦情はありませんが、当面は先進自治体の事例等情報収集に努めていきます。	広聴相談課  環境保全課
8	生活保護を受けている人の中には、長い間悠々と生活をしている人がいる。本当に困っている人が受けれるように1、2年で見直しをすることはできないのか。	生活保護のケースワーカーは担当地区ごとに配置しているが、常に真剣に見直しをして相談に当たっている。	ケースワーカーは、保護を必要とする人が、必要な保護を受けることができるよう、関係機関への調査、確認を行うとともに、被保護者に対しては自立の助長を図っています。	生活福祉課
9	近くのごみ置き場に収集日でない日に車を駐車場代わりに止めている人がいる。注意をしたいので、ごみ置き場の所有者を教えてください。	一般的に区画で困ってあるごみ置き場は、市に移管されているが、様々な形で設置されているため、具体的な場所を教えてもれれば、どこが管理しているか判明する。	市の所有地であることが確認できましたので、収集場所に駐車禁止看板を設置しました。	清掃事業所
10	弘法の里湯の管理運営費は一般会計処理されているが、収支状況が不透明なため特別会計で処理すべきではないか。 また、このような事業は民間委託にすることで経費削減ができると思うがどうか。	平成19年度の単年度収支では約4千万円の黒字経営となっているが、黒字を一般財源として使用するのではなく、建設費の償還や将来の修繕のために積み立てていることから、今のところは、安定した運営を行っている。 また、どのような管理運営形態にするのがよいのかは、今後策定する公共施設再配置計画の中でも考えていきたい。	21年12月に学識経験者や有識者で構成する検討委員会を設置し、公共施設再配置計画の策定に向けて取り組みを進めています。 弘法の里湯の管理運営については、この策定作業において、民間事業者等を活用することによる効果と課題の検証、現体制との比較検討等した上で、最適な管理運営形態となるよう検討していきます。	公共施設再配置計画担当

平成21年度地区別市政懇談会意見・要望 大根地区

平成21年11月17日

No.	質問内容	地区別市政懇談会における回答	現在の状況及び今後の対応等の補足	担当課
11	<p>国で行なっている事業仕分けは、既に地方の市や町で実施しているが、秦野市は行っているのか。</p>	<p>事業仕分け手法を取り入れた行政評価を、全1,300事業のうち180事業で行っている。 現在、新総合計画に併せて新行革プランを策定しているが、無駄を省くという作業は続けていく。</p>	<p>13年度から、市民や学識経験者などにより市の事業を外部から検証し、その結果を踏まえ見直しを行う、行政評価を実施しています。 今後も評価の透明性や実効性を高めるよう努めていきます。</p>	行政経営課
12	<p>高齢化社会が進展する中で、高齢者の生きがいをどのように捉えているのか。例えば就労することも生きがいに繋がると思うがどうか。</p>	<p>31年間病院のおむつたたみをやっていた市内の女性グループが緑綬褒章を受けたり、弘法山や頭高山などでは自主的に里山の整備などを行っているグループがある。 高齢者の生きがいは、病気をしないで元気に働き、さらには社会に尽くす、つまり、自分たちが目標を持つことだと考える。</p>	<p>高齢者が社会とのかかわりを持ち続け、生き生きと生活していくためには、高齢者自らがこれまで培ってきた知識や経験等を活かして、地域社会の中で積極的に果たしていくことが大切です。 そこで、広畑ふれあいプラザ等での学習活動や地域活動である老人クラブへの参加、また、就労を通じて高齢者の生きがいの確保や社会参加を推進していきます。</p>	高齢介護課
13	<p>高齢化社会に伴い高齢者の孤独死が心配されるが、対応策はどのようなか。</p>	<p>民生委員など近所の方が係わろうとしても拒否する方もいる。このような中で、郵便局や新聞販売店と協定を結んで見守りをしているが、今後も様々な角度で孤独死の防止対策を続けていきたい。</p>	<p>在宅のひとり暮らし高齢者等には、民生委員や地域高齢者支援センター職員が訪問、安否確認を兼ねた給食サービス及び緊急の対応が必要な方に緊急通報装置付電話機を貸与しています。 また、郵便局と協定を締結して、安否等について市に報告する体制をとっています。 今後も様々な角度で、孤独死の防止対策を続けていきます。</p>	高齢介護課